



令和2年度「地域でつながる家庭教育応援事業」

家庭教育支援者地区別研修（会津地区）

- 目的： 家庭教育に関わる地域の課題や子どもたちを受け止める家庭環境づくりについて研鑽を重ね、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の実践力を高める。
さらに、家庭教育支援チームの実際を学び、地域の家庭教育支援者の後継者育成を目指す。
- 日時： 令和2年度11月19日（木）13：20～16：20
- 場所： 会津若松市北会津公民館
- 参加者： 44名

講演「子どもが学校へ行けなくなったときの支援」

～家族療法を支援に活かす～

公認心理師 新潟県新潟市スクールカウンセラー

佐藤 真奈美 様



参加者全員が「たいへん参考になった」等肯定的に回答しており、満足感が大きい内容でした。

実践事例に即して、「原因探しより何ならできそうか」や「焦らないで待つこと」、「パワー充電が必要なことを理解する」についてお話いただきました。

また、ジョイニングやコーピング・クエスチョンという技法を用いながら信頼関係を育み、歩み寄る具体的な支援の在り方を習得することができました。家族で協働支援をしていくという意識を高めることが大切であることや未来志向のアプローチで、希望・期待を持ち、現状維持あるいは小さな進歩で前向きに捉えていくことが大切であるとのお話に、参加者の表情も明るくなっていました。



【参加者の声】

- 今まで不登校の原因→ 結果を捉えていました。原因探しよりも、どうやったらできそうか、何なら出来そうかを一緒に探して行くことが有効だとわかりました。
- 家族に受け入れられているという安心感が子どもの中にエネルギーを蓄えることになるお話に納得しました。
- カウンセリングの技法が習得できました。保護者面談に活かしたいです。
- 今まで不登校の捉え方を間違っていたことに気づかされました。パワー切れ、面談のスキル、どんな家族でも努力していると信じるなど、肝に銘じ支援したいです。

質疑・応答・相談等では、事前に配布した質問用紙にたくさんの質問・相談が寄せられました。

「不登校の子にできることはないか？」

「担任としてできることはないか？」

「支援者として待つ、できたことに目を向けることの基準は？」等、今後の支援に活かそうという前向きな内容が見られました。

また、今後もこのような研修会を開催してほしいという声が多く聞かれました。

会津教育事務所としては、家庭教育の視点から不登校対応へのアプローチを今後も進めてまいります。

【参加者の声】

- 保護者・学校・支援者等様々な立場の方が日々奮闘し、頑張っておられることを痛感しました。日常生活でできることを続けていきたいと思います。
- 地域の支援者と学校が共に子どもを育てる視点は大変重要であり、また、家庭教育の役割も非常に大きいと考えます。今後も連携してできる研修を行っていただきたいです。
- 相談ケースへの介入の仕方、踏み込むことと、踏みとどまる判断の仕方等参考になりました。
- 支援者の考え方一つ、行動一つで相談者やその家族に与える影響は大きいと改めて感じました。おもてなしの心で支援したいです。